

OnAir 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム北海道 様

OnAir 3000-18F



第1スタジオに OnAir 3000 を採用



株式会社エフエム北海道
経営管理局 技術業務部
山田 英行

第1スタジオ音声卓更新について

エフエム北海道では2015年1月に第1スタジオ音声卓を更新しました。このスタジオは番組/CM収録・編集をメインとして使用しているスタジオです。

OnAir 3000 の選定理由

2012年8月の第3スタジオ音声卓更新に引き続き OnAir 3000 を採用しました。信頼性と安定性、高音質、操作性等についてはすでに実証済みです。制作現場からも統一性を持たせてほしいとの意見もありました、この後のマスター更新も考慮して OnAir 3000 がもっとも適していると判断し導入を決定しました。

もちろんシンプルで解りやすく誤操作を誘発



しないこと、省スペース化、既存設備との接続が容易に行えること、保守体制、弊社スタジオの運用状況なども考慮しています。

構成について

第3スタジオ音声卓更新後の使用状況や今までのこのスタジオでの使用状況を加味してフェーダー数は18ch、フェーダースクリーンとロータリーモジュールを1面構成としました。このスタジオでのオペレートはディレクターのみのときと技術スタッフが付く場合もあるのでロータリーモジュール等のダイレクトな操作も可能と好評です。

また、前回開発していただいた、PCを使用した監視メーター/時計/タイマーを一体化したディスプレイをデスクのメーターブリッジに収納しています。ステレオで16系統の音声を監視できる多機能なマルチメーターユニットが見やすくマウントされています。これによりPGM出力だけでなくAUX SEND 4系統 /N-X SEND 10系統を同時監視でき、PGM出力とMONI SEL 出力は3分間の波形履歴も表示できるようになっています。

運用について

第3スタジオに続き同じ OnAir 3000 なので

制作担当者も簡単な説明ですぐに収録対応ができておりました、フェーダースクリーンやロータリーモジュール、多機能マルチメーターユニットも解りやすい等、全体の操作性・視認性についても大変好評です。

最後になりましたが、OnAir 3000 の導入について限られた予算、短い工期にもかかわらずトラブル無く尽力いただきましたスチューダー・ジャパンブロードキャスト様、キューベルズシンク様、クリエイティブネクストデザイン様、アビックラボ様など関係各社様に厚くお礼申し上げます。

